

第3章 住宅の状況

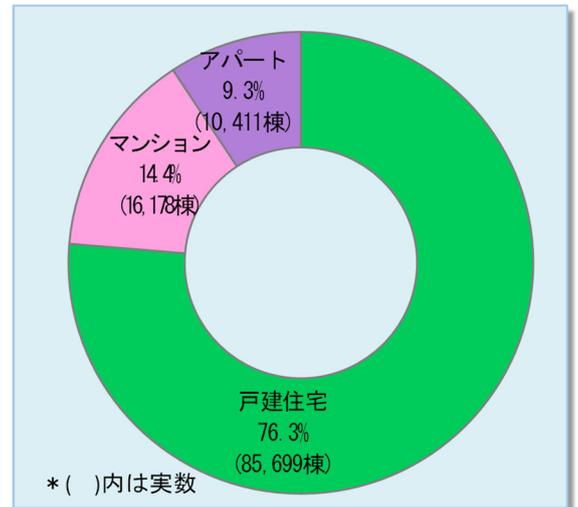
1 住宅系建物の推移

◆ アパートが減少傾向

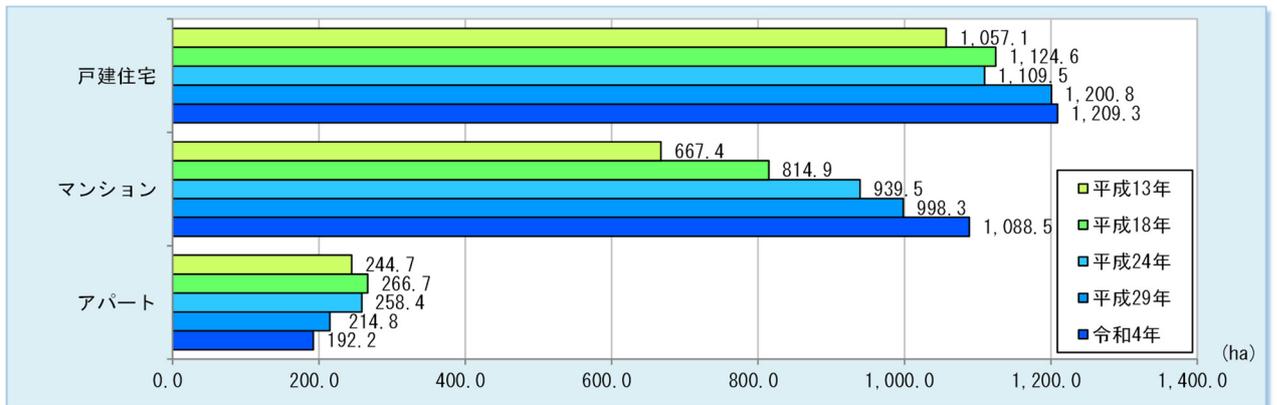
- 住宅系建物の内訳を見ると、戸建住宅棟数が76.3%となっています。
- マンションは、棟数、延べ床面積ともにアパートより多くなっています。
- 延べ床面積では、戸建住宅と集合住宅（アパート・マンション）が概ね半数の割合のまま推移しています。

マンションとは、集合住宅のうち、建物の構造が耐火構造の建物のことを指しています。
 アパートとは、集合住宅のうち、木構造の建物のことを指しています。

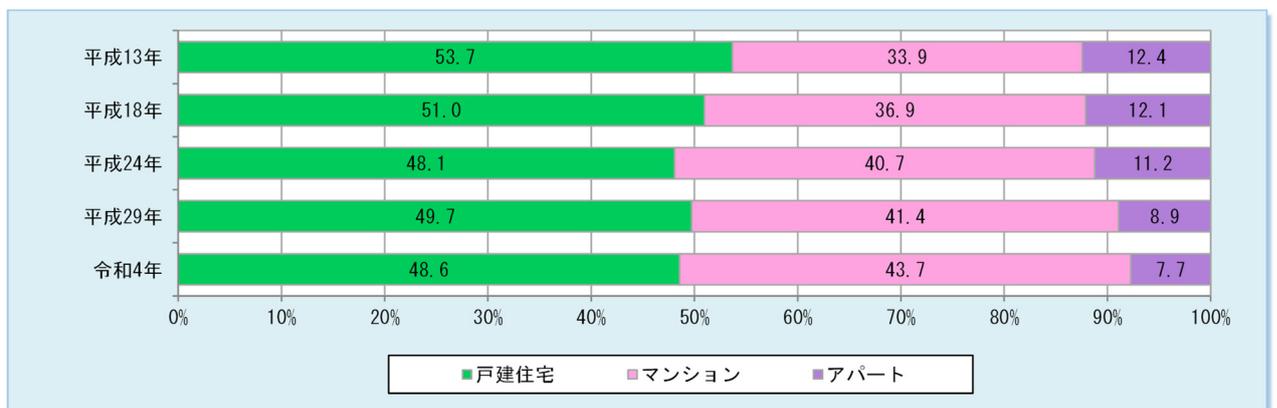
【住宅種類別棟数の状況】



【住宅種類別延べ床面積の推移】



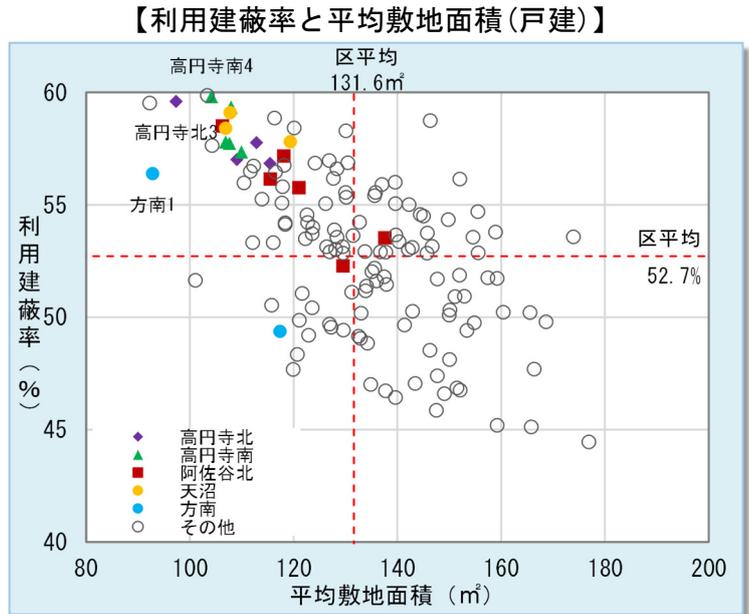
【住宅種類別延べ床面積比率の推移】



2 戸建敷地面積の状況

◆ 区南部や西部では比較的ゆとりある敷地をもつ住宅地が分布

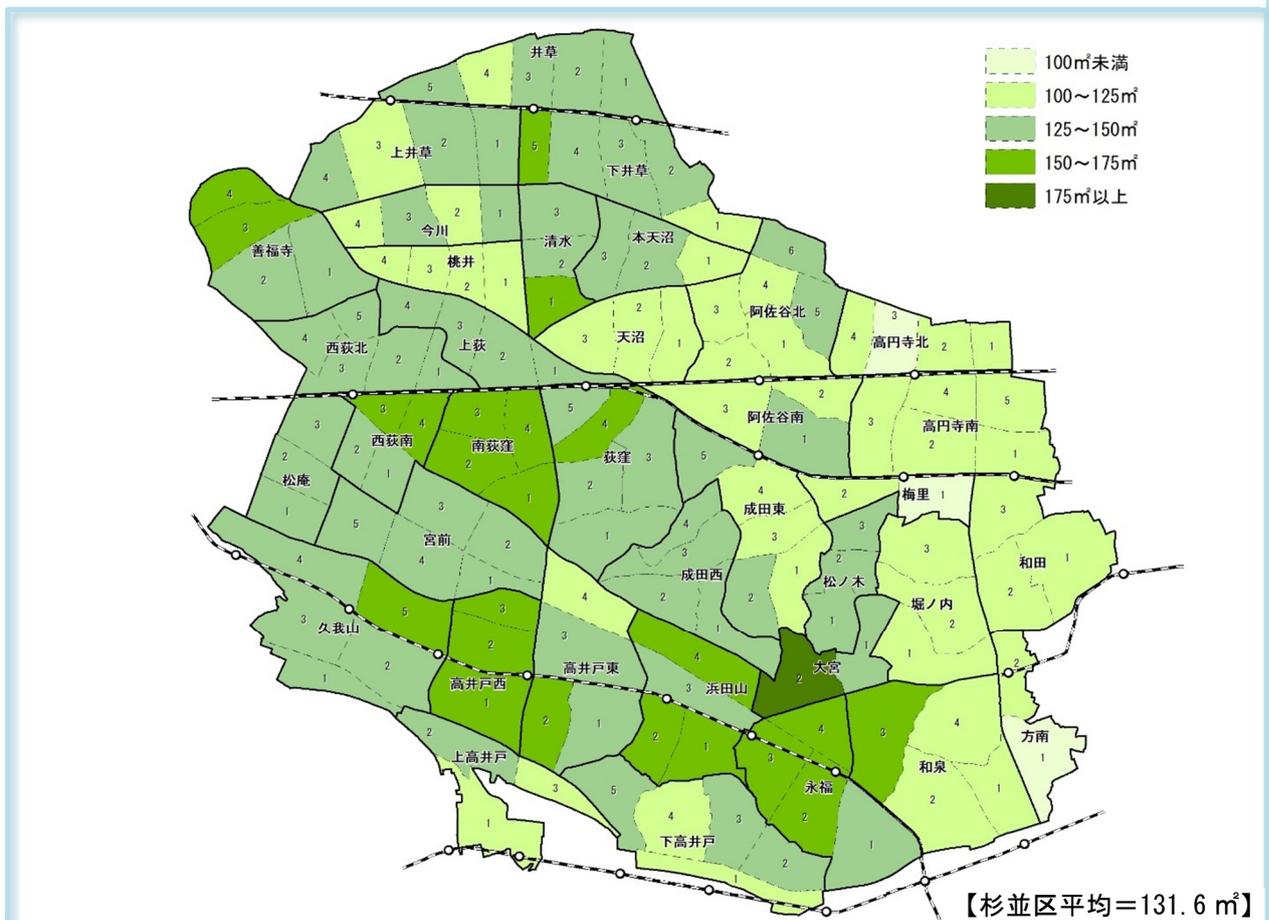
- 杉並区の戸建住宅の敷地単位の平均敷地面積は、131.6㎡となっています。町丁目別の平均敷地面積を見ると、150㎡以上の町丁目は、区の南部から西部に多く見られます。特に大宮2丁目では、175㎡以上となっています。
- 平均戸建敷地面積が狭い高円寺北、高円寺南、阿佐谷北、天沼や方南については、利用建蔽率が比較的高くなっています(P21「利用建蔽率現況図」参照)。



※大規模な敷地を集計対象とすると、平均化され町丁目の実態が見えにくくなるため、ここでは、500㎡以上の敷地を集計対象から除外しました。

※GISの集計上、町丁目界等で分割された敷地は、過半の町丁目に計上しました。

【平均戸建敷地面積の状況図(町丁目別)】



平均戸建敷地面積 = (戸建住宅の宅地面積合計) / (戸建住宅の宅地数合計)